

新盆

お迎えの準備



24時間365日、ご依頼・ご相談承ります。

 **0120-743-200**

「法要殿」で検索してください。

www.houyouden.co.jp



 **法要殿**



おもてなしのほのかに燈籠流しけり 蛇笏



新盆（初盆）

新盆とは？

新盆とは故人の四十九日の忌明け（きあけ）以降に初めて迎えるお盆のことです。そのため、忌明法要が8月12日までに終えていなければ、新盆はその年ではなく翌年に行います。

お盆には先祖の霊が帰ってくると言われ、自宅でお供えや提灯を置いてお迎えし、お墓参りをするなどの供養をするのが一般的です。

新盆は亡くなった故人の霊が初めて帰ってくるお盆なので、一般的には僧侶に新盆供養をお願いし、親族、故人と親交の深かった人などを招いて、通常のお盆よりも丁重に供養をします。

地域によっては、新盆を盛大に行うこともあります。また、地域によって新盆を「しんぼん」「にいぼん」あるいは「初盆（はつぼん・ういぼん）」などとも呼びます。

新盆の時期

全国的にみると8月に行われる旧盆が主流ですが、7月15日を中心として行われる新盆が主流の地域もあります。お住まいの地域のお盆期間の中で、新盆の法事をいつ行うか決める必要があります。

親族や親しい方が集まりやすく、お寺の都合もつく日を確認し、新盆の日時は早めに決めることが大切です。



由 来

お盆の由来

お盆とは正式には【盂蘭盆】といい、古代のインド語の一つであるサンスクリット語の「ウランバナ」を漢字にあてはめて読まれた言葉です。お釈迦様の弟子の目連は、母親が死後の世界で餓鬼道に堕ちて飢えに苦しんでいる姿を見て、お釈迦様に母を救う方法の教えを請いました。その教えに従って、布施や供養を僧侶や多くの方々に施したところ、その功德により母親は極楽浄土に行くことができました。それ以来、目連が多くの人に施しをした7月15日は先祖供養の大切な日となったと伝えられています。お盆の時期お寺では「盂蘭盆会(うらぼんえ)」という法要を執り行います。各家庭ではお盆には故人の霊が帰って来るといわれ、お供えや提灯を飾ってお迎えします。

盆踊りは、お盆の供養

盆踊りは本来お盆に帰ってきた祖先の霊たちを迎えおくための念仏踊りとして始まった宗教行事で、誰もが参加でき祖先への思いを馳せ供養するための踊りです。



準 備

白紋天提灯

白紋天提灯は故人が家を見つけやすいように、飾るものなので玄関先や軒下といった入りやすい場所に飾ります。しかし、近年では防犯上の理由から仏壇の前などに飾る人も増えてきています。



〔白色が選ばれる意味〕

そもそも、初盆は白紋天でなければいけないのでしょうか。初盆と言うのは、故人が亡くなってからの最初のお盆であり、まだ亡くなってそれほど期間も空いていません。そのため、清浄無垢の意味を持つ白色を使った白紋天提灯を飾り、霊を迎え入れましょう、という意味で使われています。なお、白紋天提灯に使われる木についても白木が使われているものを選ぶと良いでしょう。

キュウリの馬となすの牛

爪楊枝や割りばしを足にして、馬や牛に見立てたキュウリやなすを飾ります。ご先祖様に早く帰ってきて欲しい願いを込めて精霊馬(しょうりょううま)、ゆっくりあの世に帰って欲しい願いを込めて精霊牛(しょうりょううし)、と呼ばれています。どちらもご先祖様がこの世とあの世を行き来するのに使う乗り物です。



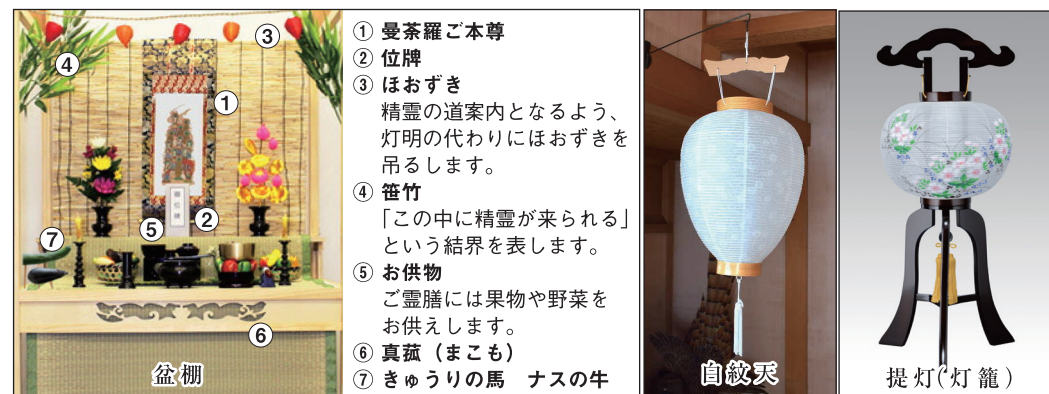


流れ

新盆のお参りには、家族だけではなく、
親戚や親しかった知人などもお参りに来られます。
当社では、お盆棚の準備・飾りつけからお参りに来られた方へ
お渡しするギフトのご用意をさせていただいております。
詳しくは葬儀担当者にご相談ください。

新盆の準備するもの

- ・ 盆棚
- ・ 白紋天
- ・ まこも
- ・ おがら
- ・ お供え
- ・ 提灯(灯籠)



お迎え

お墓参りを行い、お墓の掃除をします。
夕方に迎え火を焚きます。提灯に火を灯します。



先祖の霊が帰ってきているこの期間は、
お供え物の団子や食べ物、水などは毎日交換します。
(お供え物は、故人が好きだった物が良い)



お迎えをした後、住職を呼び、お盆のお経をあげて頂きます。
(お盆期間中ならいつでも良い)

送り火

できるだけ遅い時間に、迎え火と同じ場所で、
迎え火と同様に送り火をします。

法要殿 お問い合わせ
0120-743-200

